北海道がんセンター通信

2017 第41号 JANUARY

「初雪の朝」撮影者：加藤 秀則

CONTENTS

●北海道がんサミット要望書提出　管理課長　原田　康司 …… 2
●北洋銀行さんとの連携協定について …… 3
●参加報告「がん対策北海道議会議員の会」勉強会 …… 3
●がん遺伝子診断外来が開設されました　副院長　加藤　秀則 …… 4
●第70回国立病院機構総合医学会 …… 5
●開催報告「第７回医療安全祭」　医療安全管理係長　上村　雅恵 … 6・7
「平成28年度看護部講演会」　５Ａ病棟副看護師長　森川　尚美 …… 8
「北海道がん患者交流会」がん相談支援センター　副看護師長　小寺　陽子 …… 9
●開催報告〈講演会〉
「後志管内高等学校養護教諭研究会 第２回研究協議会」地域医療連携係長　菊地久美子 …… 10
「がんの教育総合支援事業「がん教育」」　庶務班長　先崎　正夫 …… 10
●講演報告「産業医研修会」　管理課長　原田　康司 …… 11
「健康教室」 …… 11
●地域医療連携室からのお知らせ …… 12

北海道がんセンターの理念

私たちは、国民の健康のために、良質で信頼される医療の提供に努めます。

（基本方針）

1 特に、「がん克服」に寄与することを目指します。
2 常に医療の質と技術の向上を目指します。
3 医療安全を確保し、安心できる医療を提供します。
4 患者さんの権利を尊重し、誠実な医療を実践します。
5 研究、教育研修を推進し、医学・医療の発展に寄与します。

北海道知事と北海道議会議長、札幌市長に要望書を提出しました

平成28年10月28日（金）、近藤院長（北海道がん対策「六位一体」協議会副会長）と長瀬北海道医師会長（同協議会会長）、患者代表の佐野委員、柴田委員は、要望書「患者が望むがん対策 ～全国で２番目に高い死亡率を下げるために～」を高橋北海道知事と秋元札幌市長、三井北海道議会副議長に手渡しました。

この要望書は７月24日に開催した「北海道がんサミット2016」において、患者さんを中心とした六位（ろくみ）がワーキングで交わした議論を集約したものです。

要望内容は、がんで死亡する人を減らすため、がん検診の受診率を高めることができるよう費用の負担軽減を図ることや、国と連携してがん専門医を養成するとともに地域間の格差が無くなるよう適正な配置をするほか、道や市町村としてがん対策の取り組みを充実させるよう求めたものです。

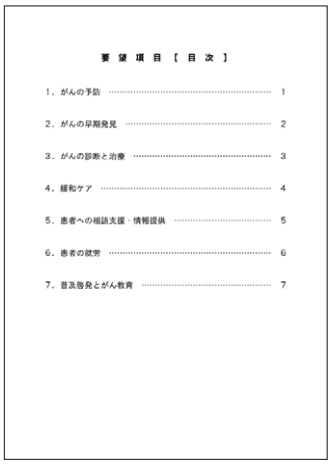
【六位（ろくみ）一体のイメージ】

要望を受けた高橋知事は、「北海道は、がん検診後のフォローアップが不充分だとの国からの指摘もあり、しっかり対応しなくてはならないと考えている。皆様方の総意としてのがん対策をしっかり進めていきたい」と話し、今後のがん対策に反映させていく考えを示してくれました。

患者が望むがん対策
～全国で２番目に高い死亡率を下げるために～

「要　望　書」

平成 28 年 10 月
北海道がん対策「六位一体」協議会


要望項目【目次】

1．がんの予防 …… 1
2．がんの早期発見 …… 2
3．がんの診断と治療 …… 3
4．緩和ケア …… 4
5．患者への相談支援・情報提供 …… 5
6．患者の就労 …… 6
7．普及啓発とがん教育 …… 7

秋元札幌市長と三井北海道議会副議長も「皆さんの議論を参考に、今後のがん対策に取り組みたい。」と応えてくれました。

この要望書は、札幌市以外の178市町村にも送付しております。

「要望書」全文は 当院ホームページ http://www.sap-cc.org/ の「北海道がん対策「六位一体」協議会 北海道がんサミット2016」のバナーよりご覧いただけます。

（報告：管理課長 原田 康司）

北海道がんサミット2016

平成28年11月7日

北洋銀行さんと「がん対策の推進に関する連携協定書」を締結

この度、がん撲滅に向けた取り組みを推進し、がんを知り、がんと向き合い、がんに負けることのない社会の実現に寄与することを目的に、北洋銀行さんと連携協定を締結しました。国立病院機構内の病院で連携協定書を締結するのはこれが初めてです。

今後は本協定に基づき相互に密接な連携を保ち、北洋銀行の職員や家族に向けて、がんの正しい知識の普及啓発、がん検診の受診勧奨、がんの早期発見・早期治療の理解促進、進行・再発がんに対する緩和医療、がん患者の就労問題を含めた集学的取り組みの促進などの活動を行ってまいります。

調印式で近藤院長は、「働く世代のがん対策が重要であり、様々な企業と取引のある北洋銀行さんと啓蒙したい」と話し、北洋銀行の柴田副頭取も「まずは行内でセミナーを開催し、その後取引先に広げていきたい」と応えていただきました。

なお、２月10日（金）に加藤副院長を講師としたがんセミナーを、北洋銀行豊平地区の支店長30名程度を対象に開催される予定です。

参加報告

「がん対策北海道議会議員の会」勉強会

平成28年11月１日（火）、北海道議会議員101名全員による超党派の「がん対策北海道議会議員の会」が初の勉強会を開き、近藤院長が講師に招かれました。

「がん対策北海道議会議員の会」は、北海道がん対策「六位一体」協議会の発足時には「六位一体」構成員である議員の参加がなかったことから、近藤院長が北海道議会に何度も足を運んで、がん対策の重要性を訴えた結果により発足したものです。

勉強会には道議41名が出席、近藤院長が北海道のがんの現状や課題などを話したほか、７月に開催した「北海道がんサミット2016」において議論した内容を集約した要望書の内容を解説しました。（要望書は10月28日に北海道議会副議長へ手交）

近藤院長は、がんの原因となる「たばこ」について、「北海道の高い喫煙率を下げるには受動喫煙防止条例の早期制定を道議の皆さんにお願いしたい。変化を生むのも生まないのも道議の皆さんしだいです。」と訴えました。

加藤礼一議員の会会長は、「受動喫煙防止条例の必要性を感じる。制定に向け努力する。」と応えてくれました。

（報告：管理課長 原田 康司）

がん遺伝子診断外来が開設されました

副院長
加藤 秀則

昨年12月より北海道がんセンターでがん遺伝子診断外来を開始しました。この外来は北海道大学でがん遺伝子診断を研究している医師が来院して患者さんの相談を受け、その上で必要（希望）があれば、北海道大学の大規模がん遺伝子検査であるクラーク検査に紹介をいたします。この検査にはいくつかのコースがあるのですが、標準的なところは160個のがんに関連する遺伝子を検索するクラーク検査（L）がお勧めになっています。費用は65万円程度かかります。この検査の結果、約半数の検者に治療可能な新しい薬が見つかっているそうです。ただしこれは検査から理論的に推薦される薬剤で、効果を保証するものではありません。

ヒトの細胞が癌化するときには、細胞が増えることを後押しする「がん遺伝子」（車でいうとエンジン）と無制限な細胞増殖にストップをかける「がん抑制遺伝子」（車でいうとブレーキ）の不活性化の両方がおこっていると考えられています。

従来までの抗がん剤はこれらの遺伝子（がんの種類や、患者さん一人一人でいくつか異なった遺伝子が変化しています：みんな同じではありません）ひとつひとつを標的とするのではなく、活発に増殖する細胞をやっつける（エンジンが暴走しているなら燃料をカットしよう、ブレーキが効かないならロープをかけて引っ張ろう）性質があり多くのがんに共通して使える薬、が使われてきました。近年分子標的薬（ハーセプチン、イレッサなどが有名ですね）が登場しました。これは変化している遺伝子個々に対応して、その異常なところを攻撃する薬で、ある遺伝子変化が多い特定のがんに効果を発揮します。エンジンが暴走しているのに、アクセルが壊れてガソリンが入りすぎているのか、燃料噴射ポンプが壊れて勝手に噴射し続けているのか、ハイブリッドカーの実はモーターが勝手に回っているのか、はたまたブレーキデスクが割れてしまっているのか、ブレーキオイルが抜けているのか・・・、個々の原因に対応しようとする治療です。

それをさらに進めて「がんのテーラーメード治療」という考えが出てきています。がんの種類に対応ではなく、一人一人の患者さんに起こっている遺伝子異常を突き止めて、それに合った分子標的薬を探して、使っていこうという考えです。

現在のところ、費用・時間・汎用性などの面からすべての患者さんに応用するには至っていません。今回の外来は「（主に）標準的な治療を行ったが効果がなく有効な薬をもうお勧めできない、進行、再発癌の患者さんを対象として、この検査を行う上での利点や欠点、可能性を相談させていただく外来です。そこで希望があれば先ほどの北大の検査にお繋します。可能性のある薬は、治験があれば治験へ、また多くの場合は保険外で私費になることが予想されます。

第70回 国立病院総合医学会

医療構造の変化と国立病院機構に問われる役割　～命（ぬち）ぐすい、温かい医療を広げよう～

2016年11月11日（金）～12日（土）

第70回国立病院総合医学会は、平成28年11月11・12日の両日、沖縄県宜野湾市にて行われ、会運営を担当した九州医療センター・福岡病院・沖縄病院の尽力もあり、盛会のうちに終了しました。

当院の職員も多数参加し、うち１名がベストポスター賞を受賞しました。

沖縄コンベンションセンター

宜野湾市立体育館

ラグナガーデンホテル

カルチャーリゾート フェストーネ

ベストポスター賞

歯科口腔外科
秦　浩信 先生

「北海道がんセンターにおけるがん診療医科歯科前連携システム構築の取り組み」

来年は、香川県高松市での開催となります。

開催報告　第７回

● 11月17日(木) 9:15～17:00　● 11月18日 (金) 9:15～16:00

医療安全管理部と教育研修部合同の企画・運営により、医療安全に関する院内各部署の取り組みと最新情報を知ることを目的として、第７回医療安全祭を平成28年11月17日(木)・18日(金)の２日間にわたり、病院内大講堂で開催しました。

内容につきましては、以下のとおりです。

① 院内各部署の医療安全に対する取り組みポスターの展示

② 医療安全、感染管理、栄養管理室、緩和ケア、がん化学療法についての活動ポスターの展示

③ WOCによる「チューブ類の安全な固定方法」のポスター展示と体験コーナー

④ 国立病院総合医学会で発表した研究内容のポスター展示

⑤ メディコン・テルモ・陽進堂・３Ｍ・クリニコ・ヤクルト・大塚各社によるサンプル展示や使用方法の説明・体験コーナー

⑥ BLS研修

WOC「チューブ類の安全な固定方法」

体験コーナー

医療安全祭

● 於 北海道がんセンター 大講堂

当日は、
大変多くの方に
お越しいただきました。

全職員を対象とし、２日間で463名の参加がありました。なお、BLS研修の参加者は164名でした。各部署の医療安全に対する取り組みポスターでは、投票によりベストポスター賞を選出し、第１位 5Ａ病棟、第２位 栄養管理室、第３位 消化器内科が受賞しました。

次年度も更に工夫をこらして、多くの職員が参加して良かったと思える企画運営をしていきたいと思います。

ポスター展示

来年も開催する予定です。
ぜひおいでください。

BLS研修

（報告：医療安全管理係長 上村 雅恵）

開催報告

平成28年度 看護部講演会

テーマ 「マーガレット・ニューマン理論に導かれた看護実践」

講師：武蔵野大学看護学部看護学科教授 諸田 直実先生

平成28年10月14日（金）、当院大講堂において平成28年度の看護部講演会を開催しました。今年度は講師に武蔵野大学看護学部看護学科教授の諸田直実先生をお迎えし、「マーガレット・ニューマン理論に導かれた看護実践」というテーマでご講演いただきました。院内外よりたくさんの方々にお越しいただき、院内83名、院外18名の合計101名の参加となりました。

マーガレット・ニューマン理論は近年がん看護分野で注目を浴び、実践報告が相次いでいます。一般的な看護理論と異なり概念枠組みはなく、全体性のパラダイムの理解、人を環境との相互作用の中にある全体的存在で捉えること、プロセスの重視が前提となります。その上で、看護師は患者が自分のパターンを認識し、新たな生きるルールを見出すプロセスを促進する資源となることがこの理論のポイントとなります。看護師の患者のケアリング・パートナーシップについては諸田先生の事例により具体的に説明があり、難しい理論をわかりやすく展開していただきました。特に、「私たち看護師は、自分自身と患者さん自身がもつ力を信じる」「患者の成長を敏感に捉え、喜びと感謝を分かち合う」という言葉が印象的で、患者の変化によって私たち看護師も変化し続ける可能性を感じました。

参加者からも今回の講演について、「患者に寄り添う看護について改めて考えさせられた」「患者本人の力を引き出していくことに繋げていくことができることに非常に驚き、ますます学んで実践に取り入れたい」などといったご意見・ご感想をたくさんいただきました。

この講演会を通して学んだことを、北海道がんセンターの看護職員として今後のがん看護ケアに少しずつでも活かしていきたいと思います。

講師の諸田直実先生

講演会風景

（報告：５Ａ病棟 副看護師長 森川 尚美）

開催報告

「北海道がん患者交流会」を開催しました

都道府県別のがん死亡率が３年連続第２位の北海道では道内各地にたくさんのがん患者や家族がおり、がん患者団体や患者支援団体も数多く活動しています。

より多くのがん種の、より多くの患者や家族の切なる思いや願いを、議員や行政、医療機関などに発信するためこれらの活動団体が結束しようと、都道府県がん診療連携拠点病院である北海道がんセンターが呼びかけをし、「北海道がん患者交流会」を平成28年10月14日（金）に第１回目を、12月２日（金）に第２回目を開催いたしました。

両日とも、札幌とその近郊の他、釧路や滝川、函館などからがん患者や家族をはじめとして、がん患者団体・患者支援団体の代表者、北海道庁、道議会議員ら延べ100名以上の参加がありました。またメディアも北海道新聞、北海道医療新聞、TVH（日経系）からの取材もありました。

第１部は講演を行い、第１回目は近藤啓史院長より「北海道の肺がんの現状 ～治療方法はあるのか」、木川幸一認定がん専門相談員より「北海道のがん患者の就労支援の現状」についての講演がありました。第２回目は高橋由美がん化学療法看護認定看護師から「抗がん剤治療と治療中の過ごし方」、木川幸一認定がん専門相談員より「抗がん剤治療と障害年金」についての講演があり、両会とも非常に分かりやすい内容だったとの感想が多くあり、皆さん熱心に講演を聴講されていました。

第２部の意見交流会では、近藤啓史院長の司会進行のもと、がん患者団体や支援団体、がん患者さんや家族から活発な意見や提案が挙げられました。また昨年７月に行われた「北海道がんサミット2016」で作成した要望書の報告も合わせて行われました。今後もより多くの患者や家族の願いを、議員や行政、医療機関などに発信するためにはがん患者やがん患者団体が結束する必要があるとの声が上がり、今後は「北海道がん患者連絡会」を設立し、継続的に交流の場を設けていくことが会場一致の希望で決定しました。

次回の開催日は３月３日（金）を予定し、将来的には札幌以外の各地域でも開催を検討していくこととなっています。

（報告：がん相談支援センター 副看護師長 小寺 陽子）

報告　後志管内高等学校養護教諭研究会　第２回研究協議会

平成28年10月17日（月）倶知安農業高等学校で開催された、後志管内高等学校養護教諭研究会 第２回研究協議会において、「がん教育の、今」のセッションで、近藤院長が招かれ講演をしてきました。近藤院長は小・中・高のそれぞれの学校で児童、生徒にがん教育の講演を行い、その経験と全国ワースト２位という北海道のがん死亡率をもとに「がんをもっとよく知ろう ～医療の現場から」というタイトルで話をしました。

約20名の後志管内の高校養護教諭に１時間の講演を行い、「がんは遺伝子の病気」、「受動喫煙を含めた喫煙、ピロリ菌、Ｂ型・Ｃ型肝炎ウイルス、ヒトパピローマウイルスなどがんの原因の予防が重要」また「北海道は対策型の検診率が低く、症状がでてからはではⅢ、Ⅳ期が多く死亡率が高い理由」と話をされ、養護教諭の観点からもがん教育は重要と問題意識を持って頂けたと思います。

（報告：地域医療連携係長 菊地久美子）

報告　〈がんの教育総合支援事業〉札幌市立山鼻小学校　「がん教育」

平成28年12月６日（火）札幌市立山鼻小学校において、高学年である５、６年生176人を対象に当院近藤院長が「がん教育」の講演を行いました。北海道のがんの教育総合支援事業に基づき、平成26年より毎年行っており、教職員、保護者の方々の参加もあります。

当日の講演は、生活習慣病のひとつ「がんのことをもっと知ろう」小学校６年生（予防編）と題し、がんを予防するため若い年代から喫煙、食事、運動不足など将来の生活習慣などについて皆で考える場となりました。ひとりひとりに「がん」と向き合ってもらえるよう、近藤院長は、「がんについて自分で出来ること」、「家の人に対して出来ること」など、たくさんの生徒さんに質問のマイクを向けました。

がんは早期発見、早期治療が重要なため、検診を受ける必要性も考えなければいけません。生徒の皆さんの表情は真剣なもので、熱心に聴き入っていましたので、きっと、深く「がん」について考えさせられる１日となったことでしょう。

（報告：庶務班長 先崎 正夫）

「産業医研修会」札幌市産業医協議会

札幌市産業医協議会が主催しているこの研修会は、産業医の専門知識向上のため定期に開催されています。平成28年10月31日（月）札幌市医師会館において、近藤院長が招かれ「がんを知り、がんに負けない 2016 ～就労支援を含めて」と題して講演しました。

近藤院長は、集まった235名の産業医を前に、北海道におけるがんの現状や問題点、「がん対策基本法」の制定から現在までのがん対策の歩み、「がん対策推進基本法」と「がん対策加速化プラン」における就労支援の位置づけなどを話しました。

「健康教室」健康保険組合連合会北海道連合会

健康保険組合連合会北海道連合会は、各企業が設立している健康保険組合の連合組織として、医療制度改革や医療費適化のための活動、各健康保険組合の運営サポート活動などを行っている団体です。

活動の一環として、定期的に健保連北海道連合会役職員を対象に「健康教室」を開催、この度は、がんに対する理解とがん予防の知識の習得を目的に平成28年11月16日（水）北農健保会館において、近藤院長が招かれ「北海道のがんの現状と問題点」と題して講演しました。

近藤院長は集まった30名の役職員を前に、がん死亡率など全国における北海道の現状や問題点を解説するとともに、がん教育やがん予防の重要性を話してきました。

（報告：管理課長 原田 康司）

地域医療連携室からのお知らせ

●セカンドオピニオン外来のご案内

現在、別の医療機関にかかっている患者さんで、治療方針につき他の医師の意見（セカンドオピニオン）を聞いてみたい方、またはそのご家族の方が対象です。治療方針の選択に悩む方などの要望にお答えします。一般の外来時間とは別に30分単位の完全予約制で行います。

【相談対象疾患】 がん・悪性腫瘍の全疾患

＊右記①②の内容については除外しています。 ①訴訟を目的にしている場合 ②診療費についての相談

【お申し込み方法】

1．地域医療連携室へ下記の方法でお申し込みください。
　①紹介医療機関からの紹介状もしくは診療情報提供書のFAX
　②ご本人・ご家族からの電話

2．セカンドオピニオンは下記のものが必要になります。
　①紹介医療機関の主治医の紹介状もしくは診療情報提供書（予約時）
　②検査資料（画像、各種検査データ等、CD-ROM等）（予約前日まで）

3．面談日時
　当院の当該診療科医長と調整の上、面談日時をお知らせします。
　（担当医師は該当する診療科の医長となります。）

4．費用：10,800円/30分（以降30分ごと10,800円追加）（保険診療対象外）

＊地域医療連携室はこちらです

【当日持参していただくもの】

・健康保険証(本人確認のため)
・ご家族だけで面談を希望される方は、必ず患者さん本人からの「委任状」と、委任を受けた方が本人と確認できる証明書等（健康保険証、運転免許証など）をご持参願います。

☆詳しくはホームページをご覧ください。

患者さんの権利

1. 人格が尊重され、良質な医療を平等に受ける権利があります。
2. 十分な説明を受け、自分が受けている医療について知る権利があります。
3. 自らの意思で、医療に同意し、選択し、決定する権利があります。
4. 個人のプライバシーが守られる権利があります。

患者さんの責務

1. 良質な医療を実現するため、医師等に患者さん自身に関する情報を正確に提供してください。
2. 納得出来る医療を受けるため、良く理解出来なかった説明については、理解出来るまで質問してください。
3. 他の患者さんの医療及び職員の業務に支障を与えないようにご配慮下さい。

患者さんへのお願い

院内の取り決めを守り、病院職員と協同して医療に参加、協力することをお願いします。

独立行政法人 国立病院機構

北海道がんセンター

都道府県がん診療連携拠点病院

〒003-0804
北海道札幌市白石区菊水4条2丁目3-54
代表 TEL (011) 811-9111
FAX (011) 832-0652
ホームページ http://www.sap-cc.org/
スマートフォン版ページ
http://www.sap-cc.org/sp/
QRコード→

●相談窓口

がん相談支援センター
直通電話（011）811-9118
地域医療連携室
直通電話（011）811-9117
直通FAX（011）811-9110
メールアドレス hcccis00@sap-cc.go.jp

交通のご案内

【地下鉄】 地下鉄東西線「菊水駅」下車、3番出口より徒歩3分
【自動車】 駐車場につきましては数に限りがありますので、できるだけ、公共の交通機関をご利用下さい。